

「駅」を通じた地域活性化 地域をつなぐサンキッチンプロジェクト



サン・マルシェ実行委員長 サンキッチン代表 畑 美和子

サン・マルシェの始まり

・高齢者の一言

「車に乗れないからと遠くまで買い物に行けないのよ...」

そんな声を聞いて、考えました！

買い物に行けない→近くにお店を呼べないか？

そこで着目したのが...【谷川駅】

➡地域の誰もが知っていて、交通の便が良い【駅】

で、美味しい物や楽しいこと、地域の魅力が詰まった

マルシェを開催しよう！と思いました。

神戸新聞 2019年5月18日付朝刊

「山南を盛り上げたい」住民有志が企画

駅でマルシェ 家族でGO!!

26日、谷川駅で初開催

丹波市 地正良でつる「サン・マルシェ実行委員会」の主催。委員の一部は昨年、丹波市が主導した「TAMBA地域づくり大学」の講座「無人駅インベシジョン丹波」を受講し、得た知識を実践しようと、同委員会を今年4月に結成した。

同駅は一部の特急「さくら」が停車するなど山南地区の代表駅であり、加古川線を使えば北城、東播地域からもアクセスしやすい。ただ、駅周辺は2016年に観光案内所が撤去するなど、往年に比べて寂しい状況になっており、委員たちは「山南を盛り上げたい」との思い、準備に奔走している。

飲食など10店、音楽ライブも

丹波市山南町の住民有志らが26日、「JR福知山線の谷川駅（丹波市山南町地区）」で、飲食物の販売や音楽ライブを行うイベント「サン・マルシェ」を初開催する。丹波市内外から集う約10店が同駅の待合室内でパンや和菓子を販売するほか、かつて同線を通った車両の模型を展示し、家族連れに楽しんでもらえる一日を演出する。（真鍋 愛）

実行委員長の畑美和子さん（44）は「お散歩に出かけるように、気軽に足を運んで」と呼び掛けている。午前10時～午後3時、雨天決行。電車を利用した先着200人の来場者には、JRグッズのプレゼントがある。同会090・8882・3505

当日は、久下自治振興会や山南ゆかりの店主らが工芸品や焼き菓子などを販売



サン・マルシェへの来場を呼び掛ける実行委員ら＝丹波市柏原町柏原

【出典】2019年5月18日付朝刊神戸新聞丹波篠山版掲載

サン・マルシェの内容紹介

【地元のお店を中心とした飲食物の販売】



【伝統行事の発信】



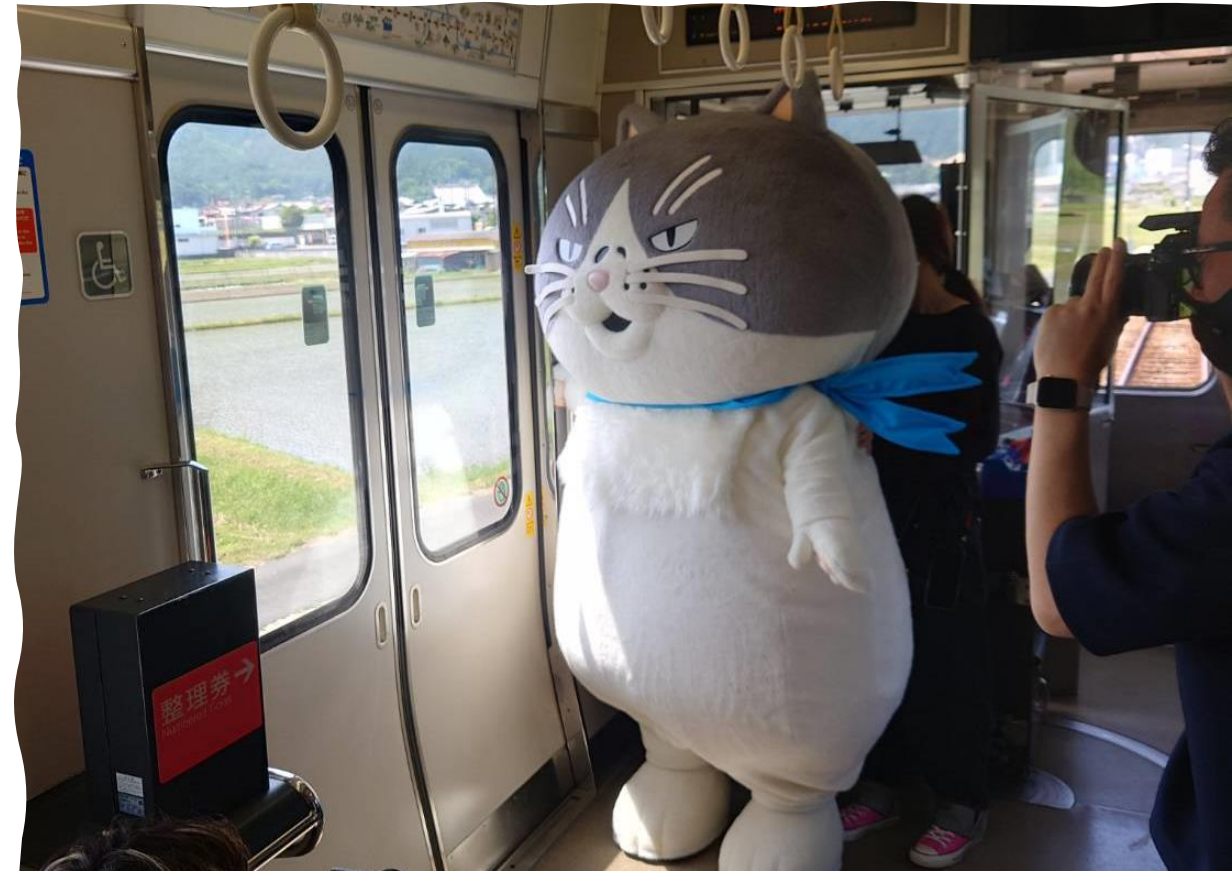
【地域で活動するアマチュアミュージシャンの演奏】



鉄道や駅をもっと楽しむアイデア



鉄道利用者に驚きと楽しさの付加価値を！



サン・マルシェの成果・反響

2019.5.26 第1回サン・マルシェ開催
2022.10.16 第2回サン・マルシェ開催
2023.5.21 第3回サン・マルシェ開催
2024.5.12 第4回サン・マルシェ開催
2025.5.18 第5回サン・マルシェ開催

【来場者数】

第1回開催時500名→2回目以降は1,000名超(第5回開催時加古川線利用来場者は約200名)

【参加年齢層】

地元の高齢者中心

→地域の子ども、市内外から家族連れも

【反響】

「美味しい食べ物が沢山あって良かった」

「知り合いと会えて嬉しかった」

「久しぶりに電車に乗って楽しかった」

「地域の良さを再確認した」「毎月開催してほしい」...アンケート結果より



見えてきた課題

人口減少・高齢化(山南地域過疎指定)
鉄道利用者の減少(加古川線赤字問題)
空家・空き店舗の増加、移住定住の不足...etc

第4回開催時に出店スペースとして駅前にある空き店舗
(旧国鉄バス・タクシー待合所)を借りたことがきっかけ
になり、一時的ではなく継続的な取組として新しい拠点
をつくる事を決意しました。

サン・マルシェから
サンキッチンの誕生へ！



サンキッチンの設計と 運営イメージ

- ・ サンキッチンで出来る事

【1F】飲食店経営や菓子製造

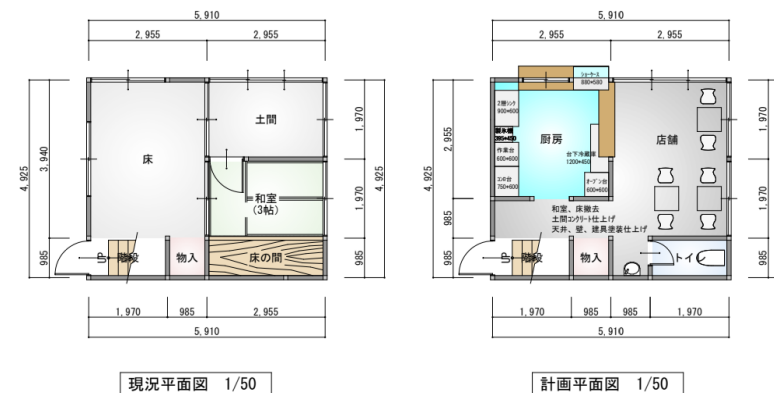
(飲食店営業許可・菓子製造許可あり)

【2F】ミーティングやコワーキングスペース

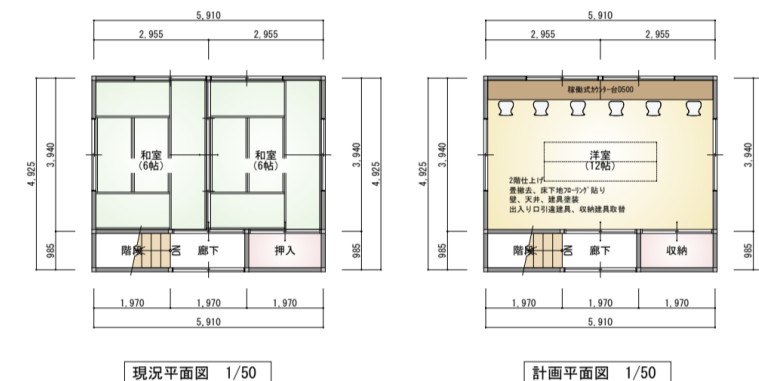
(ゲームの大会やワークショップなどの間借り)

【店舗前】無人野菜販売

(カフェスペースで野菜を使った料理の提供も)



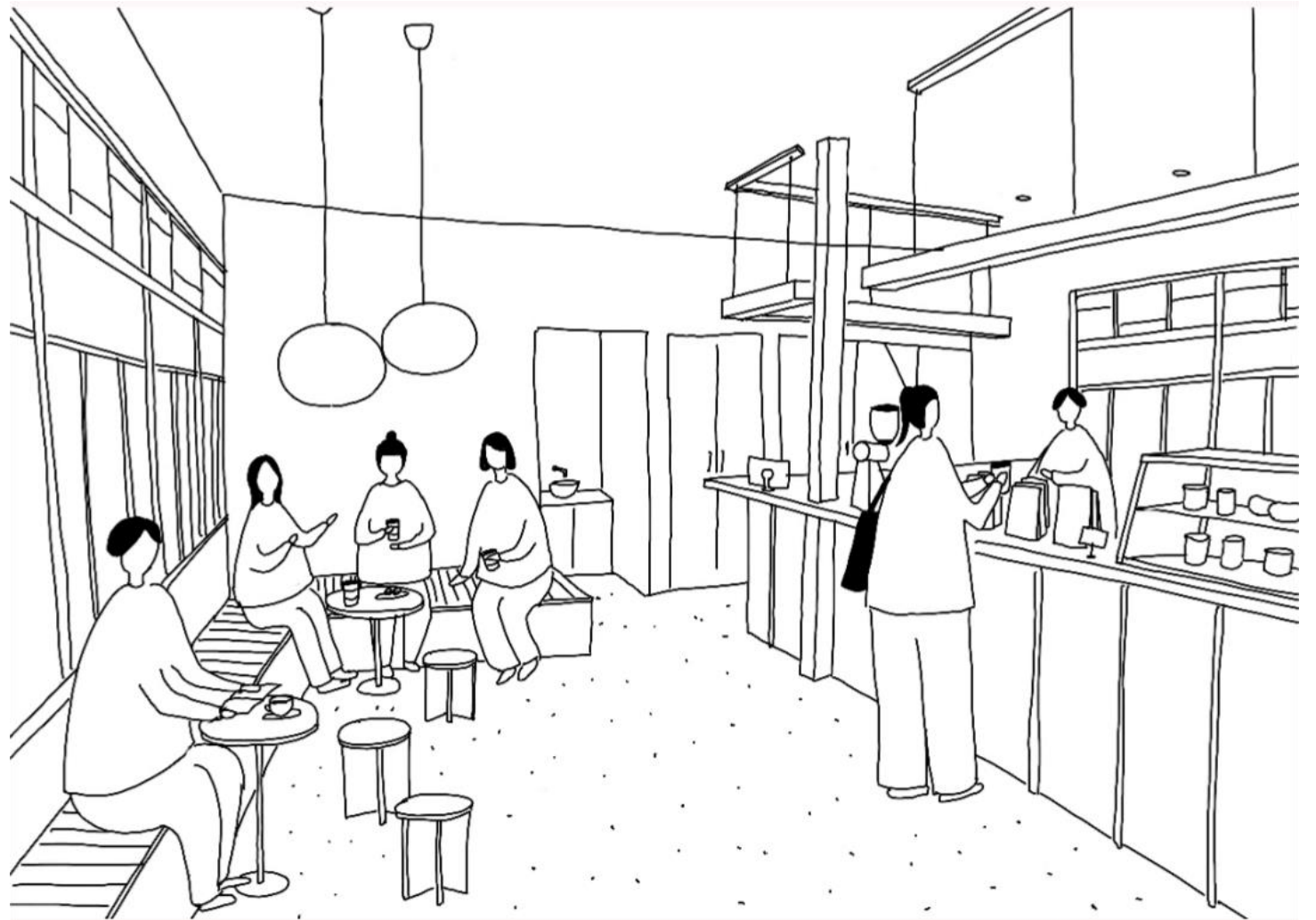
1F



2F

期待される効果

- 地域内外の交流の促進
- 小商い創出
- 鉄道やバスの利用率の向上
- 空き店舗活用による景観回復
- 駅前の観光拠点化
- 関係人口の形成
- 起業環境の提供



新しい拠点を目指して 交通へのお願い

【交通の維持・ダイヤ等の改善】

・加古川線やバス⇄福知山線乗り
継ぎ、加古川線のICOCA利用

【駅周辺の賑わい創出と連動した 交通活性化】

イベント時のコンツ列車、臨時バ
スやアイデアの実現化

【現谷川駅舎の存続】

地域住民にとってかけがえのない
場所、故郷の玄関口



駅前の小さなキッチンが地域をつなぎ未来をつくる場所へ



サンキッチン 2025年12月オープン予定です どうぞよろしくお願いいたします